

# ソフトバンクグループ CSRレポート 2015



# 情報革命で 人々を幸せに

ソフトバンクグループ 代表

孫 正義



ソフトバンクグループは「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、情報革命による激動の時代の中で挑戦し続けるとともに、事業を通じて全ての人々と社会に貢献していく企業グループであり続けたいと思っています。

「情報革命」により、近い将来コンピューターの知的能力が人間の知的能力を超える時代の到来が予想されます。それにより、コンピューターは人間とより近い存在になり、人の考えや感情を理解できるようになることで、人類をより心豊かに、感情豊かに、そして幸せにすることができると信じています。

ソフトバンクグループは情報革命の先駆者として、そんな未来を見据えて、人々のライフスタイルをより豊かで楽しいものに変え、世界中の皆さまと共に発展し続けます。人々は、豊かな

生活を手に入れることで心にゆとりが生まれ、広い視野を持って、より多くの社会課題に目を向けることができるようになります。そうした社会に貢献することこそが、企業としての社会的責任であると私たちは考えます。

これからも世界中の人々に幸せを届けるため、私たちは「ソフトバンクグループCSR基本方針」として、「健全なインターネット社会」「夢と志を持つ次世代」「地球の未来」「復興支援」というテーマを掲げ、お客さまや株主、取引先の皆さま、従業員を含めた全てのステークホルダーの皆さまとの信頼基盤を築き、日々の事業活動を通じて、社会課題の解決に取り組んでまいりたいと思います。

## ソフトバンクグループCSR基本方針

ソフトバンクグループは通信事業者として、情報という名のライフラインを守る重要な使命と責任を負っています。この大きな社会的責任を完遂するために、私たちは常にお客さまの「うれしい」から考え始め、成長への果敢な挑戦を通じて株主の皆さまの期待に応えます。また、その挑戦が成長を生む環境を整えて従業員のやりがいと誇りを大切に、相互信頼と革新をベースにしてお取引先との発展を期し、そして健全なインターネット社会の夢と志を、次世代に受け継がせられるような社会への貢献を続けていきます。

- 私たちは… 私たちソフトバンクグループは、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、事業を通してステークホルダーの皆さまと共に発展を遂げる企業でありたい。そのために、私たちは、自らにこう問いつけます。
- 創っているだろうか ワクワクする驚きを。わかりやすさと安心を。みんなの「うれしい」を。  
ソフトバンクグループは、**お客さま**本位でありつづけます。
- 進めているだろうか 成長へのあくなき挑戦を。健全で透明な経営を。公正で適時な情報開示を。  
ソフトバンクグループは、**株主**の皆さまの期待に応えていきます。
- 持っているだろうか チャレンジと成長の場を。個性が生かされる環境を。頑張りや成果が評価される仕組みを。  
ソフトバンクグループは、**従業員**のやりがいと誇りを大切にします。
- 築いているだろうか 相互の信頼を。公正な取引関係を。革新を生み出すパートナーシップを。  
ソフトバンクグループは、**取引先**の皆さまと共に発展していきます。
- 育てているだろうか 健全なインターネット社会を。夢と志をもつ次世代を。地球の未来を。  
ソフトバンクグループは、人々が幸せになる**社会**作りに貢献します。

ソフトバンクグループは あすのインターネット社会にむけて、志高く事業に取り組んでまいります。

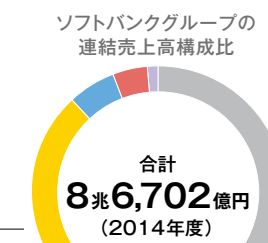
## ソフトバンクグループについて

ソフトバンクグループは、事業領域である「情報産業」において、時代に必要とされる最先端のテクノロジーと最も優れたビジネスモデルにより、情報革命を推進していきます。

社名	ソフトバンク株式会社*1 SoftBank Corp.	2015年3月末現在
設立年月日	1981年9月3日	
本社所在地	〒105-7303 東京都港区東新橋1-9-1	
代表者	代表取締役社長 孫 正義	
資本金	2,388億円	
子会社数	769社(うち海外621社)	
関連会社数	120社(うち海外70社)	
従業員数	202人(連結ベース66,154人)	

ソフトバンクグループの事業領域と主なグループ企業 (2014年度)

■ 移動通信事業	ソフトバンクモバイル株式会社*2 ワイモバイル株式会社*2 Wireless City Planning株式会社 Brightstar Corp. ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社*3 / Supercell Oy	4兆1,895億円
■ スプリント事業	Sprint Corporation	3兆8,000億円
■ 固定通信事業	ソフトバンクテレコム株式会社*2 / ソフトバンクBB株式会社*2 ワイモバイル株式会社*2 / ヤフー株式会社	5,411億円
■ インターネット事業	ヤフー株式会社	4,191億円
■ その他	福岡ソフトバンクホークス株式会社 / SBエナジー株式会社 Bloom Energy Japan株式会社 など	1,112億円



\*1 2015年7月1日付でソフトバンク(株)は社名をソフトバンクグループ(株)(英文社名:SoftBank Group Corp.)に変更。  
\*2 2015年4月1日付でソフトバンクモバイル(株)はソフトバンクBB(株)、ソフトバンクテレコム(株)、ワイモバイル(株)を吸収合併。2015年7月1日付でソフトバンクモバイル(株)は社名をソフトバンク(株)に変更。  
\*3 ガンホー・オンライン・エンターテイメント(株)による自己株式の公開買付けが2015年6月1日に成立したことなどに伴い、ガンホー・オンライン・エンターテイメント(株)はソフトバンク(株)(現ソフトバンクグループ(株))の持分法適用関連会社に。

■ 社名の表記について  
このCSRレポートでは、特段の記載がない限り、2015年7月1日時点での社名を示しています。

## Contents

- 2 社長メッセージ
- ソフトバンクグループCSR基本方針
- 3 ソフトバンクグループについて
- 4 みんなで協力できる社会を
  - かざして募金
  - スマートフォンを利用した新しい寄付の形による支援の輪を広げるために、「かざして募金」を活用したさまざまな施策を実施しました。
  - Pepper・ざとふる
- 7 ライフライン
- 8 被災地支援
  - チャリティホワイト
  - TOMODACHI
  - ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム
  - 帰国後の生徒たちは留学プログラムでの学びを経て、地域のために役立てようと、さまざまな場面でリーダーシップを発揮しています。
  - Yahoo! JAPANによる継続的な復興支援
  - Yahoo! JAPANでは、インターネットを使った復興支援やサイクリングイベントの主催など、今もなお継続的な復興支援を行っています。
- 14 夢と志を持つ次世代
- 16 環境
- 18 多様なニーズ
- 20 いつも安心・安全を
- 21 その他
- 22 グローバル
- 24 ソフトバンクグループのCSR活動  
2014年度実績と2015年度予定

[報告期間] 2014年4月～2015年3月  
[主な報告範囲] ソフトバンクグループ(国内連結子会社)

以下のボタンから、より詳しい情報をご覧頂けます。

外部サイトへ 動画へ 関連ページへ



# 月々の携帯電話利用料金と一緒に寄付ができる 日本初<sup>\*1</sup>の寄付プラットフォーム「かざして募金」 みんなが誰かを支える、そんな世界が始まります

## スマートフォンを利用した新しい寄付の形

ソフトバンクでは、企業活動を通じた社会貢献の一つとして、SoftBankの携帯電話利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるプラットフォーム「かざして募金」を提供しています。東日本大震災以降、より多くの方にご参加いただける社会貢献の形を検討した結果、「寄付したい人」と「持続可能な活動を行うために寄付を必要とする非営利団体」をつなぐプラットフォームの提供という答えにたどり着きました。

2014年3月にリリースした「かざして募金」は、現在240以上<sup>\*2</sup>のさまざまな分野の非営利団体にご利用いただいています。寄付者は、「かざして募金」に登録する非営利団体のホームページや「かざして募金」のアプリケーションから、SoftBankの

携帯電話利用料金と一緒に継続的に寄付の決済をしていただけます。また、「かざして募金」のアプリケーションをインストールしたスマートフォンを、対象となるポスターやチラシなどにかざすことでも、簡単に寄付いただけます。多くの人が持っているスマートフォンで簡単に社会貢献ができるため、新しい寄付の形として注目が集まっています。

今後も非営利団体の活動を継続的に支援するため、より多くの方にご利用いただける環境づくりに取り組めます。さらに、非営利団体と寄付者のコミュニケーション構築や、新しい活動のきっかけづくりなど、社会課題の解決に向けた活用方法を今後も検討していきます。

<sup>\*1</sup> 特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会調べ  
<sup>\*2</sup> 2015年6月1日現在

# かざして募金

## 「かざして募金」の広がり

2014年6月9日から9月30日まで、社会貢献活動や慈善活動に取り組む非営利団体を応援するために、「かざして募金」を利用した皆さまの寄付回数に応じて、ソフトバンクからも追加で寄付を行う「ハートラッピングプロジェクト」を実施しました。約3カ月間で皆さまから4,015,900円の寄付が集まり、ソフトバンクからも1,130,000円の追加寄付を行いました。

また、ソフトバンクは、学生による社会貢献活動の促進や寄付文化の醸成に寄与することを目的に、賢者屋が主催する「ソーシャルグッドアカデミー」に協力しました。参加した学生は、社会貢献やファンドレイジング<sup>\*3</sup>をテーマにした講義を受講し、「かざして募金」を活用した募金活動を企画・実行しました。

2015年3月には、東北の子どもたちの笑顔をつなげるために、東日本大震災被災地の子どもたちを応援するプロジェクトを実施しました。被災した地域の子どもたちのために活動している対象団体向けに「かざして募金」で支援を募り、継続

的に寄付をしていただいた方に、感謝の気持ちを込めて「東北3県 ご当地お父さんスマートフォン用壁紙」などをプレゼントしました。

2015年5月末までに集まった寄付額は9,245,800円となり、おおよそ8割の方が継続的な支援を続けてくださっています。

ソフトバンクはこれからもさまざまな社会課題を解決するため、「かざして募金」を活用した取り組みを広げていきます。

<sup>\*3</sup> 民間非営利団体が、活動のための資金を個人や法人などから集める行為



# みんなが協力できる 社会を

▶ アプリダウンロードはこちら  

  
 ▶ 動画サイトはこちら



## 「かざして募金」とは

「かざして募金」アプリをダウンロードし、このページの枠( )内またはこのCSRレポートの表紙(全体)にかざすと、国内外で活動しているさまざまな非営利団体に継続寄付ができます。



※「毎月継続寄付」のチェックを外すと、1回限りの寄付もできます。SoftBankのスマートフォン以外からは、クレジットカードによる1回限りの寄付となります。

## 「かざして募金」登録団体インタビュー NPO法人 犬と猫のためのライフポート [千葉県]

保健所に持ち込まれた犬と猫を団体の施設に一時保護し、新しい飼い主を探すことで命を救う活動を行っています。2001年から活動を開始し、これまでに13,000頭以上の犬猫を救うことができました。「かざして募金」によって、気軽に寄付をしたいという方々の気持ちに応えることができるようになり、集まった寄付金は活動の大きな助けになっています。

今後は、寄付してくださった方に団体からメッセージを届けられるといいなと思います。

稲葉 友治 氏





## 世界初の感情を持ったパーソナルロボット「Pepper」が切り拓く、新しい社会



ソフトバンクグループでは、人々の生活を豊かにするためにロボットが重要になると考えており、将来的にはロボットと共存する社会を目指しています。

ソフトバンクグループは、さまざまな機能を搭載した世界初の感情を持つパーソナルロボット「Pepper」の一般向け販売を、2015年6月に開始しました。「Pepper」は、周囲の状況を把

握して自律的に判断し行動する、独自のアルゴリズム(計算方法)を搭載しています。また、最新の音声認識技術や、滑らかな動きを実現する優れた関節技術、ロボット自らの感情を擬似的に生成する感情認識機能を搭載するなど、人とのコミュニケーションに特化した機能とインターフェースを備えています。これにより、親しい友人や家族と接するように、「Pepper」と自然なコミュニケーションを楽しむことができます。また、お笑いやダンスなど多彩なエンターテインメント機能も有しており、その他アプリケーションをインストールすることで機能を増やすなど、自分好みにカスタマイズすることが可能です。

このような機能が注目され、「Pepper」は介護福祉の分野でも活躍が期待されています。既に、介護施設を訪れ、入居者とともにレクリエーションや会話を楽しむなどの導入試験を実施しています。

将来的には、介護職員のサポーター役として活躍したり、専用アプリを導入することで認知症の進行を抑制するお手伝いをするなど、社会課題を解決する新たな可能性を探っていきます。



## 「さとふる」で地域活性化を促進



「さとふる」とは、ふるさと納税(自治体への寄付)を推進し、地域活性化を促進するポータル総合サイトです。「ふるさとの元気を“フル”にする、ふるさとの魅力が“フル”に集まる ふるさと応援、ふるさと納税ポータルサイト」をコンセプトに、ふるさと納税の申し込み受け付けから、収納代行、入金管理、お礼品の配送、問い合わせ対応などを一括で代行しています。また応援したい自治体や特産品情報を素早く簡単に探せるウェブサイト

を開設し、寄付者の利便性を高めています。インターネットを活用することで、ふるさと納税自体の認知度向上につながると同時に、ふるさと納税を身近に感じ、地域のことをよく知っていたり、きつかけとなっています。

「さとふる」は今後も地域活性化に向けて、取り扱い自治体数を増やすなど、さまざまな取り組みを行っていきます。



## 災害時にも速やかな行動を「2014年度下期全国合同災害対策訓練」を実施

2015年2月、ソフトバンクグループは、南海トラフ巨大地震を想定した実働訓練を実施し、大規模災害発生時でも迅速に通信を応急復旧させる一連の動作を確認しました。ソフトバンクでは、移動基地局車や移動電源車を全国に配備しているほか、被害が甚大な地域をカバーできる基地局として、LTEにも対応した「気球無線中継システム」を全国に配備しています。

また、衛星回線を使って通信を提供することができる運搬可能な基地局(可搬型基地局)も全国に配備しています。可搬型基地局は、移動基地局ではカバーしきれない通信エリアや避難所などを、スポット的にカバーするための設備です。設置場所などの環境により基地局立ち上げに要する時間は変わりますが、今回の訓練では移動基地局車で約30分、組み立てなど設営に手間のかかる可搬型基地局でも、約1時間で設営が完了することを確認しました。

2014年度は全国の陸上自衛隊との災害協定締結が完了し、災害復興を行うNPO法人などへの通信手段として、ソフトバンクから携帯電話や衛星携帯電話を無償で貸し出すほか、有事に備えて行政や自治体などとも連携を取りながら、全国で相互に連携した訓練を実施しています。そのほか、海上保安庁とも災害協定を締結。2015年度には海上保安庁とも訓練を積んでいきます。



(左)衛星携帯電話201TH  
(右)PHSケータイ「イエデンワ」



関西地区で  
開催した災害時実働訓練  
(2015年2月)



# 「チャリティホワイト」を通して、東北の子どもたちへ継続的な支援を行っています

公式Facebook 

東日本大震災で被災した子どもたちへの継続的な支援に役立てるため、ソフトバンクは2011年8月より、月々の携帯電話の利用料金と合わせて寄付ができる「チャリティホワイト」を開始しました。

寄付者と寄付先団体と受益者に効果的な連鎖を生み出した点が認められ、「第5回ファンドレイジング大賞 特別賞」\*や「第9回 キッズデザイン賞」(後援：経済産業省、消費者庁)を受賞しました。

\*日本ファンドレイジング協会が毎年、人々に感動と笑顔を与えたファンドレイジングを行った団体を表彰するもの

## チャリティホワイト

 KIDS DESIGN AWARD 2015

2011年より開始した「チャリティホワイト」は、お客さまとソフトバンクが力を合わせて、東北の子どもたちを継続的に支援する取り組みです。お客さまにはオプションプランで毎月の基本利用料に加えてプラス10円を寄付いただき、ソフトバンクからも同額を拠出することで、計20円を毎月寄付しています。



集められた寄付金は、支援団体を通じて東日本大震災被災地の子どもたちのための支援活動に毎月寄付されます。

### 【活動例】

- 被災した子どもの心のケア活動
- 被災した子どもの交流の場の提供
- 子どもたちへの学習サポート活動



**ASHINAGA**  
あしなが育英会

赤い羽根共同募金 

SoftBank ケータイから **3710** ミンナト  チャリティホワイト専用お申し込みフォーム QRコード 

通話料無料・自動音声 SoftBankケータイ専用

 皆さまの温かいご支援により、寄付回数は延べ **5,013万回**\*1、  
寄付総額は **9億8,053万6,278円**\*2 となりました。

\*1 2015年5月31日時点 \*2 2015年7月5日時点

# 「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」は被災地で活動する団体を支えています



福島県南相馬市



NPO法人トイボックス代表理事  
スマイルファクトリー代表  
**白井 智子氏**

福島県南相馬市にある「みなみそうまーニングセンター～ふみだす未来の教室～」は、被災地で困難な状況に置かれている発達障がいのある子どもたち、心のケアを必要としている子どもたちの学習支援・心理ケアを目的として設立された施設です。「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」の助成先として認定を受け、小学生向け施設のほか、幼児から中学生まで対象を広げた新しいセンター施設をつくることもできました。

こうした施設は継続して安定的に運営していくことが課題ですが、チャリティホワイトの継続的な支援は非常に心強い仕組みで感謝しています。子どもたちや親御さんたちにとって、なくてはならない場所になっているからこそ、皆さまからの支援を大切に活用させていただき、しっかりと活動を続けていかなければならない、と常に思っています。



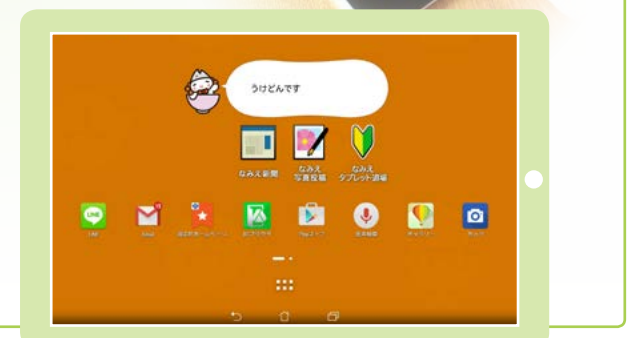
# 町民のきずなを再生するために タブレットを活用

福島県浪江町

浪江町では、経済産業省の「きずな再生強化事業」の一環として、震災により全国に離散された住民の方々の「きずな」を取り戻すために、住民にタブレット6,000台を配布しました。タブレットにはテレビ電話や、浪江町独自のアプリを搭載し、自治体と町民の双方による情報発信の場として、町民同士のコミュニケーションを促進してきました。

タブレットを住民に配布するにあたり、ソフトバンクは専用のコールセンターを構築・運営し、また全国に離散した住民向けのタブレット講習会などを実施しました。今もなお、家族や友人などと離れて暮らすことを余儀なくされ、苦しんでいる被災者の方々、および復興に向けて奮闘されている浪江町自治体のために少しでも力になれるよう、これからも全力で活動をサポートしていきます。

\*2015年7月21日時点





# 東北に夢を、活気を、変化を 「TOMODACHI ソフトバンク・ リーダーシップ・プログラム」

## 「役に立つ人になってほしい。」— 孫 正義

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地域である岩手・宮城・福島の高校生を、ソフトバンクグループ代表の孫 正義の母校である米国カリフォルニア大学パークレー校で行われる3週間のプログラムに無償で招待し、リーダーシップと地域貢献を学ぶ機会を提供しています。

本プログラムは、参加者が「Y-PLAN (Youth-Plan, Learn, Act, Now!)」という同大学のプログラムに参加して、地域社会を改善する方法を探求したり、現地の人々と共にボランティア活動を行ったり、起業家との面会やホームステイ、アメリカの高校生との交流などを通じて、リーダーシップと地域貢献のスキルを身に付けるものです。

初年度の2012年は300人、2013年からは毎年約100人が参加しており、これまで約600人の高校生が渡米しました。

帰国した生徒の多くは、本プログラムで学んだことをそれぞれの地域社会のために役立てようと、さまざまな場面でリーダーシップを発揮し、積極的に地域貢献活動に取り組んでいます。



福島県  
いわき市

## ■ 観光客誘致のツアーを企画

「観光客が激減した地元に観光客を呼び戻したい」と、白岩春奈さんは地元の高校生6人とエイチ・アイ・エスの協力の下、「TOMOTRA」というバスツアーを企画。竹ちくわづくりやフラダンスレッスンといった地元産業の体験や、地域で活躍する大人を巡るこのツアーはこれまで10回開催され、延べ約320人が参加しました。



宮城県  
石巻市

## ■ 自分らしくあることの美しさを発信

「活気がなくなった石巻をファッションの発信地にし、楽しい町にしたい」と、将来ファッションデザイナーを目指す山田はるひさんが始めた取り組み。石巻出身のナチュラルな美しさを持った女性を雑誌やウェブサイトで発信したり、2014年7月にはファッションショー「イシノマキコレクション」を開催。その後は仙台コレクションや神戸コレクションにも出展するなど、活動の規模を拡大しています。



一般財団法人KIBOWが主催する「KIBOW三陸@石巻」で優勝

福島県  
いわき市

## ■ 農産物の安全性とおいしさを伝える

福島第一原子力発電所の事故による風評被害で福島の野菜が敬遠される状況を目の当たりにし、「農家を助けたい、真実を知ってほしい」と、岡田健哉さんが地域の仲間と「TOMODACHIファーム」という農業体験ツアーを開催。地域の農家から農作業について学んだり、野菜の収穫体験やワークショップなどの体験イベントを行っています。2014年8月に開始し、これまで約150人が参加しています。



「FROM PROJECT 2014 最終審査会」で表彰されました

宮城県  
仙台市

## ■ 被災地の現状を伝える

仙台市近隣に住む高校生が、宮城県内の被災地域に自ら足を運び、被災地の実情を見聞きし、発信する「TOMODACHI RAW VOICE」を立ち上げました。2015年3月に仙台市で行われた「第3回国連防災世界会議」では、「TOMODACHIから宮城へ、宮城から世界へ」と題したトークイベントで、震災後の高校生の活動について報告しました。



福島県  
相双地域

## ■ 相双地域の魅力を届ける

復興に向けて頑張っている人を知ってもらい、被災地とそれ以外の人の「つながり」をつくりたいと、門馬千紗さん、阿久津裕亮さん、嶋原菜穂さん、深谷華さんがインターネット通販サービス「そうまうま定期便」を開始。年間2万円で、年に4回、高校生が薦める地域の物産を、生産者の思いやレシピ、地域情報、高校生からの感謝状と共に発送。2014年10月に開始し、現在約100人のお客さまがいます。



岩手県  
全県

## ■ 県内の高校生の心を一つに

震災後、岩手県の内陸と沿岸地域との間にあると感じた情報の差を埋めるため、「まずは若者から意識の差を解消したい」と、県内外の高校生が、県内の公立高校に新聞を作成し配布する「TOMOrrow project」というプロジェクトを企画。県内各地の高校生の思いや地域を良くしようと始めた活動を新聞に掲載するなどして、高校生同士の交流を深めることに成功しています。



認定NPO法人カタリバが主催する「全国高校生 MY PROJECT AWARD 2014」で「Best Encourage Award」を受賞



# Yahoo! JAPANによる 継続的な復興支援



インターネットを使って世の中の課題解決を行ってきたヤフー(以下「Yahoo! JAPAN」)代表取締役社長の宮坂 学に話を聞きました。

## 東日本大震災後に起こった意識の変化

Yahoo! JAPANは、東日本大震災の発生直後より、インターネットを使った正しい情報の発信や募金活動など、さまざまな活動を行いました。それによりインターネットは「震災に関する情報収集の際に有用なメディア」「信頼できるメディア」として大きな評価を受けることになりましたが、一方で、混乱が続く被災地からのインターネットアクセスが激減し、被災地域以外の人たちに情報を伝えたり支援を募ることはできても、直接的に被災地を支援することができないという大きな課題にぶつかりました。東日本大震災は、インターネット事業者である私たちにできる「課題解決」が何なのか、改めて考える機会にもなりました。

## 社員のアイデアから生まれた インターネット事業者ならではの復興支援

### 「復興部門」

「復興部門」は、東北でボランティアをしていた社員たちが、地元の方の「また、この土地で商売をしたい」という言葉を受けて始めた取り組みです。インターネットを通じて、東北のここにしかない本当に良いものを、生産者の思いと一緒に全国に届けています。



## 震災を再び「自分ごと化」 Search for 3.11

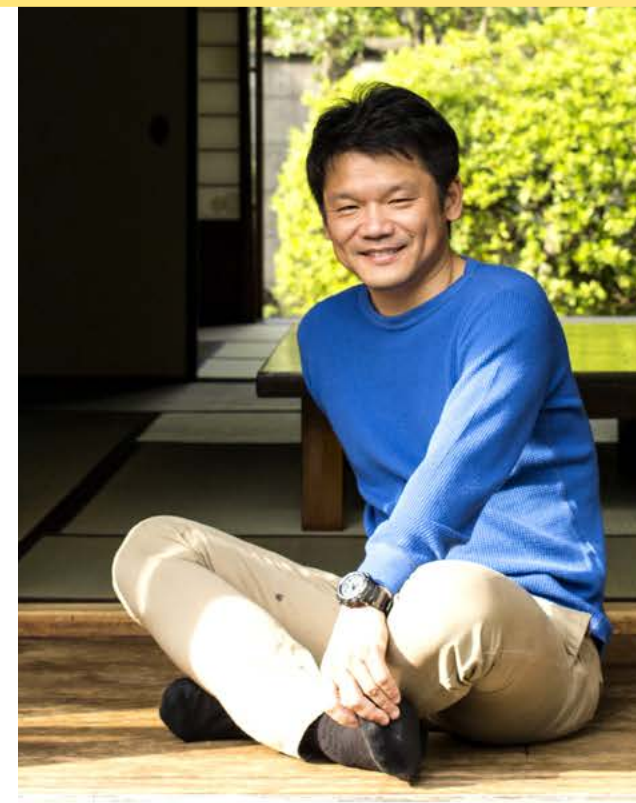
「Search for 3.11」は、3月11日に「Yahoo! 検索」で「3.11」というキーワードで検索された人数×10円を復興支援に取り組む団体に寄付する取り組みです。震災から年月が経過する中で、Yahoo! 検索のデータにも震災の風化が顕著に表れてきたことをきっかけに、検索という能動的な行為によって震災をもう一度「自分ごと化」してほしいという思いから始めました。2015年3月には、3,000万円近くを支援団体に届けることができました。



## 東北に足を運び、震災を語り継ぐ 「ヤフー石巻復興ベース」と「ツール・ド・東北」

被災地へ行き、地元の方たちと一緒に何かを生み出し、それを東北から全国に伝えていくという挑戦もしています。2012年7月には、宮城県石巻市に復興支援事業の拠点として社員5人が常駐する「ヤフー石巻復興ベース」を設け、事業を開始しました。

現地でさまざまな活動を続ける中で、東北が抱えている課題は日本の地方都市が抱える課題でもあることに気づかされました。私たちは、石巻市を拠点に地元の方たちと一緒にその課題解決に取り組む成果を出しながら、それらを事例として、全国の地方都市に水平展開していきたいと考えています。



2013年には東北に人を呼ぶために何かできないかという思いから、自転車イベント「ツール・ド・東北」をスタートさせました。1年目の参加者は約1,500人でしたが、3年目の2015年は3,500人と、出走人数を拡大しながら開催しています。この大会は10年間継続しますので、多くの人に東北に足を運んでほしいと思っています。将来は親子2代で参加して、震災を知らない子どもたちへ震災を語り継ぐなど、震災の記憶を未来につないでいけるようなイベントになってほしいと思っています。



## 事業化することで、継続的な支援を

これらの活動は、継続していくことと結果を出すことが重要だと考えています。東北の復興支援は、私たちにとっては「事業」でもあります。事業というからには、この先も会社の業績にかかわらず復興支援を継続していくために、最低限この取り組みを自走できるように黒字化しなくてはなりません。

しっかり成果を追求し、そして、自己満足ではなく、より多くの人を幸せにしていける。その結果として、プロジェクトが大きくなり、継続していける。それこそがYahoo! JAPANがCSRに取り組む意義であると考えています。

宮坂 学  
ヤフー株式会社  
代表取締役社長・CEO

YAHOO!  
JAPAN

Photography by Shunsuke Mizukami

## Yahoo! ネット募金

### 気軽に安心して寄付できる環境を

Yahoo! JAPANでは募金のポータルサイトを設け、安心して寄付ができる仕組みを提供しています。2004年に発生した新潟県中越地震の被災地へ向けた寄付を皮切りに多くの皆さまにご利用いただき、寄付総額は2015年5月現在22億円を超えました。現在までに受け付けている寄付は、福祉、環境、医療、国際協力など多分野に活用され、寄付先も今後ますます増やしていく予定です。



## Links for Good

### 非営利団体の活動を支援

Yahoo! JAPANは、サイト訪問者の興味・関心に合った広告を配信する技術「Yahoo!ディスプレイアドネットワーク」(以下「YDN」)をNPOなどの非営利団体へ無償提供しています。「YDN」を利用することで、ボランティアやチャリティイベントなどの社会貢献活動の情報を、興味・関心のある方に効率良く告知することができます。





## 携帯情報端末で、障がいのある子どもたちの生活や学習を支援

### 魔法のプロジェクト

ソフトバンクとソフトバンクグループで教育事業を担うエデュアス、東京大学先端科学技術研究センターは、2009年より、携帯電話やタブレットなどの情報端末の活用が、障がいのある子どもたちの生活や学習支援に役立つことを目指し、コミュニケーションや認知の方法として、携帯情報端末が持つ可能性を研究しています。このプロジェクトに賛同してくださった特別支援学校に携帯情報端末を一定期間無償で貸し出し、学校内での学習や、学校外での家族とのコミュニケーションなど、日常生活の場でご活用いただく中で、その具体的な活用事例を研究・公開しています。

これまで、延べ300以上の学校などにご協力いただきました。これまでに蓄積された活動事例を成果報告会で報告したり、活用事例集として発刊し公開することで、「学習や社会参加のバリアフリー」を促進しています。

### 2014年度 「魔法のプロジェクト2014 ~魔法のワンド~」

「魔法のワンド」というプロジェクト名には、障がいのある子どもたちに携帯情報端末を日常生活で強力な武器として活用してほしい、という願いが込められています。2014年4月から2015年3月末までの1年間、76校に通う児童・生徒と教員を2人1組にした79組に、計164台のスマートフォンやタブレットを無償で貸し出し、教育現場および生活の場でご活用いただきました。また、文部科学省を中心に、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育\*システムの構築が推進されていることから、学習困難を抱える通常学級の発達障がい児も新たに支援の対象に加えています。

今回初の取り組みとして、2人の先生を「魔法のティーチャー」として認定しました。携帯情報端末の機能やアプリケーションを障がいのある子どもたちの学習・生活支援にどのように生かしていくべきかを理解し、個々の教育ニーズに合わせた支援を実践できる先生の育成にも力を入れており、今後も優秀な先生を「魔法のティーチャー」として認定していきます。

\*障がいのある者となし者が共に学ぶ仕組み



魔法のプロジェクトは、「第9回 キッズデザイン賞」(後援:経済産業省、消費者庁)を受賞しました。



### これまでの取り組み

#### 2009年度「あきちゃんの魔法のポケットプロジェクト」

携帯電話を対象機種とし、学習や生活支援をテーマにした事例研究

#### 2011年度「魔法のふでばこプロジェクト」

タブレットを対象機種とし、教室内での学習を主なテーマにした事例研究

#### 2012年度「魔法のじゅうたんプロジェクト」

タブレットとスマートフォンを対象機種とし、学習や生活支援をテーマにした事例研究

#### 2013年度「魔法のランププロジェクト」

校内での学習はもとより、必要な場所でどこでも活用し、社会参加を促進することをテーマにした事例研究

### 【携帯情報端末の活用事例】

脳性まひによる四肢の機能障がいにより、学校に隣接した施設に入所している小1の児童は、家族と離れて暮らす寂しさや不安を感じていました。しかし、タブレットを利用したメールやビデオ通話で家族とコミュニケーションをとることにより、寂しさからくるネガティブな発言が減少して意欲的に学習するようになりました。



## 障がいのある若者が社会のリーダーを目指すプログラム

### DO-IT Japan

ソフトバンクは2007年より、東京大学先端科学技術研究センターが主催する「DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan」を支援しています。これは、コンピューターや各種IT機器などを利用し、全国から選ばれた障がいのある若者たちの大学進学や就職を支援することで、将来の社会のリーダーとなる人材を養成することを目的とするプログラムです。

2011年度からは「DO-IT Japan」プログラムの一部として、ソフトバンクグループのエデュアスとの共催で、タブレットを活用した

小学生向けのプログラムを実施しています。

今後も、障がいや病気を抱える参加者のコミュニケーション力の向上、また、社会に存在するバリアーを解消し、多様性のある開かれた社会を実現するための支援を行っていきます。



## プロ野球選手とのふれあいで子どもたちに夢を

### SoftBank HAWKS ベースボールキッズ 2014 in 九州



福岡ソフトバンクホークスと福岡ソフト

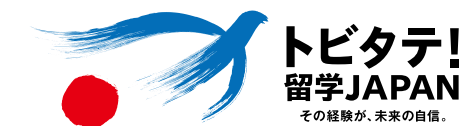
バンクホークス選手会は、2014年11月に九州の計8会場・総計2,000人を対象としたふれあい野球教室「SoftBank HAWKS ベースボールキッズ 2014 in 九州」を実施しました。

このふれあい野球教室は、ホークスの現役選手と子どもたちがふれあい、野球の楽しさを体験してもらうことにより、子どもたちの健全な育成に寄与し、地域スポーツ振興の一助とすることを目的としています。当日は野球指導のほか、記念撮影やプレゼント抽選会も行われました。野球を通じて友達と運動することの楽しさを学ぶ機会を提供しています。

## 次世代のグローバル人材を育成する官民協働プロジェクト

### トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム

ソフトバンクグループ代表の孫 正義は、16歳のときに渡米し、新しい文化やライフスタイルに触れることで自分の人生が大きく変わったと感じています。夢と希望にあふれる学生にこうした経験を提供していきたいとの思いから、ソフトバンクグループ(株)は2014年から開始された官民協働で取り組む海外留学支援制度「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」を支援しています。2020年までの7年間で約1万人の高校生・大学生がこのプログラムの派遣留学生として送り出される計画です。派遣留学生は支援企業と共にグローバル人材コミュニティーを形成し、「産業界を中心に社会で求



められる人材」「世界で、または世界を視野に入れて活躍できる人材」となることを目指します。帰国後は海外体験の魅力や、日本全体の留学機運を高めることに貢献することが期待されています。



# 自然エネルギーの 拡大を目指して

SBエナジーは、大規模な太陽光発電（メガソーラー）や風力発電など、自然の力を利用して生み出される自然エネルギーの普及・拡大を目指し、全国の地方公共団体や民間所有の土地などを活用した自然エネルギー発電所の建設とその運営を推進しています。

「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」では、環境に配慮した活動の一環として、羊とヤギによる除草試験を行いました。2014年秋の試験で、除草や集客に効果がみられたほか、地域住民や職場へのセラピー効果が得られたことから、2015年は草が生えはじめる4月から試験を開始しています。雑草の繁茂期間を通して、植生現場への除草効果、除草品質、安全面での機械除草との比較、セラピー効果などを検証していきます。

また、メガソーラー発電所の近隣にある小学校を対象に、未来



を担う子どもたちが主体的かつ創造的にエネルギーについて考える機会を提供する環境教育プログラム「未来×エネルギープロジェクト」を、教育と探究社と協力して実施しています。SBエナジーは、子どもたちに誇れる豊かな社会の実現のため、自然エネルギーの普及を積極的に推進しています。

## SB Energy

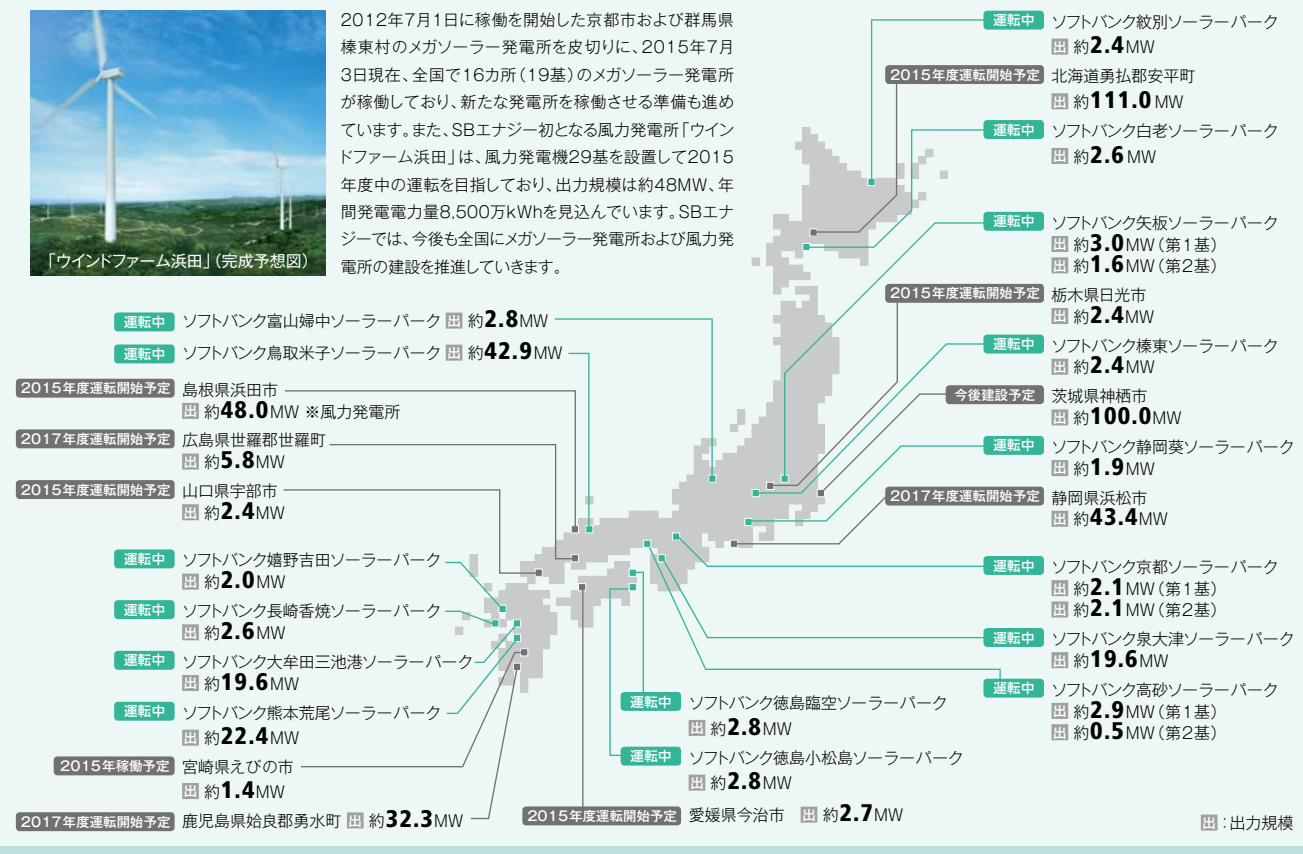
SoftBank Group

### 自然エネルギー事業

### 全国にメガソーラー発電所、風力発電所を建設



2012年7月1日に稼働を開始した京都市および群馬県榛東村のメガソーラー発電所を皮切りに、2015年7月3日現在、全国で16カ所（19基）のメガソーラー発電所が稼働しており、新たな発電所を稼働させる準備も進めています。また、SBエナジー初となる風力発電所「ウインドファーム浜田」は、風力発電機29基を設置して2015年度中の運転を目指しており、出力規模は約48MW、年間発電電力量8,500万kWhを見込んでいます。SBエナジーでは、今後も全国にメガソーラー発電所および風力発電所の建設を推進していきます。



## Bloomenergy

### Bloomエナジーサーバー

#### 日本最大の出力規模を持つ燃料電池の運用を開始

Bloom Energy Japanは、クリーンで効率的な業務用・産業用燃料電池発電システム「Bloomエナジーサーバー」の国内初号機を福岡県福岡市内の「M-TOWER」に設置し、2013年11月より営業運転を開始しました。「Bloomエナジーサーバー」はBloom Energy Corporationが特許を取得している固体酸化物形燃料電池技術を用いたもので、日本では2015年3月末現在、4カ所で導入されています。

2015年3月9日には、関西で初の設置事例として大阪府中央卸売市場に導入しました。導入した「Bloomエナジーサーバー」の出力規模は1.2MWで、1MWを超える固体酸化物形燃料電池の本格運転は日本初となります。Bloom Energy Japanでは、大阪府の進める「災害に強い、また、環境に優しい市場づくり」への貢献を目的に、主に冷蔵設備を中心とした、有事でも恒常的な電力供給が必要な重要設備に対し、24時間365日、継続的に電力の供給を行



#### 「Bloomエナジーサーバー」とは？

「Bloomエナジーサーバー」は、燃料を燃やして発電する燃焼方式ではなく、固体酸化物形燃料電池の技術を用いた化学反応によるクリーンな発電方式で、燃料（都市ガスやLNG）を60%以上\*の発電効率で電気に変換します。燃焼を伴わないクリーンで高効率な電源のため、米国では画期的な分散型ベース電源として、データセンターや工場、大規模商業施設、官公庁など、電力の持続的な供給が必要とされる施設での導入が進んでいます。

「Bloomエナジーサーバー」1基の発電能力は200kW。柔軟で拡張性のあるモジュール技術により、ニーズに合わせた発電容量での設置が可能です。

\* 交流送電端効率 (LHV基準)

います。また、高効率な「Bloomエナジーサーバー」の導入は、常時多くの電力を消費する卸売市場におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減にも貢献するため、その導入効果を先進的なモデルケースとして、今後大阪府と共に発信していきます。

\* 2015年3月 Bloom Energy Japan調べ

### 環境対応型データセンター

#### 北九州データセンター／白河データセンター

IDCフロンティアでは環境対応型の次世代データセンターを建設し、消費電力とCO<sub>2</sub>排出量の削減や、環境に配慮した新たな試みを実施するなど、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。

福岡県北九州市の「北九州データセンター（アジア・フロンティア）」は、熱循環効率の改善や空調効率の最適化を追求した「GreenMail®」を採用することで、空調消費電力・CO<sub>2</sub>排出量の削減に成功しました。

また、福島県白河市の「白河データセンター」では、北九州データセンターの運用経験から得た高度なノウハウを基に、建築機能と空調機能を融合させた建物一体型の外気空調システムを導入しました。これにより年間空調負荷の90%以上を冷涼な外気を取り込む外気空調で賄っており、データセンターで消費する電力の多くを占

める空調電力を大幅に削減し、PUE\*1.2以下を目指しています。加えて、エネルギー管理装置によるエネルギー分析を導入して省エネ効果を検証し、より一層の省エネ継続・推進を図っていきます。

\* Power Usage Effectiveness  
データセンターのエネルギー効率を示す指標の一つで、データセンター全体の消費電力をIT機器の消費電力で割った値で算出する。  
日本における一般的なデータセンターのPUE値は2.0以下と言われている。



### 携帯電話リサイクル

#### 携帯電話のリサイクル回収活動を推進

全国約2,600カ所にあるソフトバンクショップでは、携帯電話・PHSのリサイクル回収活動に取り組む「モバイル・リサイクル・ネットワーク（MRN）」の一員として、携帯電話事業者・メーカーを問わず、使用済みの携帯電話・PHSの本体、電池パック、充電器類、USIMカードなどの回収を推進しています。回収の際には、お客さまに安心してリサイクルにご協力していただけるよう、個人情報の保護に努め、携帯電話の本体を「ケータイバンチ」で物理的に破壊した後、リサイクル処理しています。

リサイクル工場での解体・粉碎・溶解などの工程を経て抽出される希少金属は、電子機器などの部品の材料として再利用されています。なお、2014年度は使用済み携帯電話本体を約105万台回収すること

ができました。また、携帯電話のリサイクルに加え、ソフトバンクでは下取りも行っています。詳しくはお近くのソフトバンクショップにお問い合わせください。

#### だれでもリサイクル

ソフトバンクでは、より多くの携帯電話やPHSのリサイクルを推進する取り組みとして、ソフトバンクショップで携帯電話をリサイクルしていただいたお客さまの中から、毎月抽選で100人に1万円分のギフトカードが当たる「だれでもリサイクル」を実施しました。また、2014年10月には期間限定で、「だれでもリサイクル」の対象を故障端末の買い取りおよび下取りにも拡大しました。

ソフトバンクはご応募いただいた回数に応じて、1回当たり5円を認定NPO法人テラ・リネッサンス\*に寄付。寄付金はレアメタルをめぐる紛争が続いているコンゴ民主共和国の紛争被害者の自立支援に使われました。

\*「地雷」「小型武器」「子ども兵」「平和教育」という課題に対して、国際的に活動する認定NPO法人



## いつでも、どこでも、誰とでもつながる社会へ

ソフトバンクは、いつでも、どこでも、誰とでもつながるインターネット社会を実現し、一人一人の暮らしをより便利で楽しく豊かなものに変えていく社会の実現を目指しています。

身体の動きに不自由がある、年齢に伴って使いにくさを感じるなど、お客さまのニーズはさまざまです。ソフトバンクでは多様なニーズに対応するため、それぞれの困難に対応したサービスを提供しています。全ての方に携帯電話をより便利にご利用いただくため、これらの情報をポータルサイト「ソフトバンクのハートフルアシスト」にて、分かりやすくジャンル別に紹介しています。



### ゲームで学べる手話辞典

ソフトバンクは、「聴覚障がい者と聴者の隔たりのない、優しい社会を構築したい」との思いから、手話学習アプリケーション「ゲームで学べる手話辞典」を提供しています。このアプリは、実際の手話の動きを取り込んだ360度回転可能な3Dアニメーションで、約3,000語の手話を収録しており、さまざまな角度から細かい手の動きを確認することができます。また、魔法でモン

スターを退治していくゲームを通して、楽しみながら手話を学ぶことができます。

このアプリは、手話アプリとして初めて、公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けました。また、一般財団法人 国際ユニバーサルデザイン協議会主催の「IAUDアワード\*2014」において銀賞を受賞しました。



\*「一人でも多くの人が快適で暮らしやすい」ユニバーサルデザイン社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行っている団体や個人に与えられる



▶ 動画サイトはこちら ▶ アプリダウンロードはこちらから



### シンプルスマホ & シンプルスマホ2

#### ■ スマホでシニアの生活をより便利に

ソフトバンクは、シニアのお客さま向けに「シンプルスマホ」「シンプルスマホ2」を提供しています。大画面ディスプレイに大きなボタンや文字を表示し、よく使う連絡先にすぐ電話やメールができるなど、見やすく操作性の良いことが特長です。

2014年11月に発売された「シンプルスマホ2」は、「シンプルスマホ」では使用できなかったコミュニケーションアプリなどの人気アプリケーションがあらかじめ搭載されているほか、より大きな画面に、大容量バッテリー、高画質カメラが搭載され、これまで以上に使いやすくなりました。

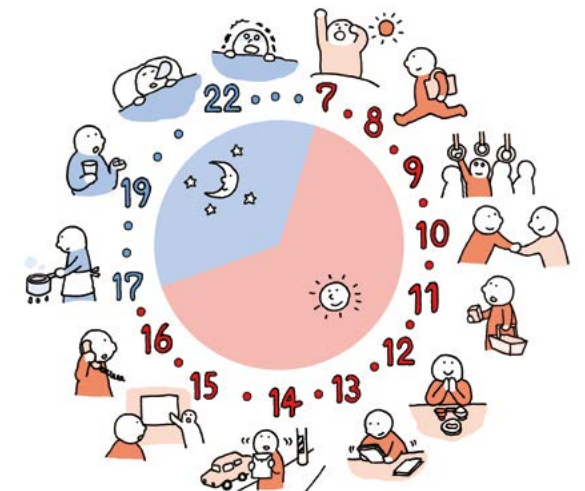
また、シニア層の趣味として好まれている「旅行」にフォーカスし、旅先で撮影した写真に、撮影した場所や住所、天気、歩数などが記録できる「旅の思い出」機能も搭載するなど、アクティブシニアの生活がより便利で豊かになるようサポートしています。



### かんたん・便利なモバイル活用術

#### ■ みんなのアイデアで生活の「困った!」を解決

ソフトバンクは、携帯情報端末を活用することで日々の生活の困りを解決し、障がいのある方をサポートすることを目指して、「生活の『困った!』を解決~かんたん・便利なモバイル活用術~」のウェブページを開発しています。このページでは、多くの人が毎日の生活で出会う「困った!」を解決するための、スマートフォン・タブレットのかんたんな使い方のアイデアを紹介しています。



### ソフトバンク手話教室 & 手話カウンター

#### ■ 手話によるコミュニケーション

ソフトバンクは「日本語」によるコミュニケーションを促進するため、「ソフトバンク手話教室」を開催しています。語学教育の理論と方法を身に付けた「ネイティブ・サイナー」(日本語を母語とする者)の講師の下で、日本語とは異なる独自の言語体系を持つ「日本語」を学ぶことができます。「ソフトバンク手話教室」は、これまでに延べ6,600人以上\*の方に受講いただいています。

また、ソフトバンク渋谷では、聴覚に障がいのあるお客さまが、

安心して携帯電話に関する相談や契約などの手続きをしていただけるよう、「手話カウンター」を併設しています。このカウンターには手話スタッフが常駐しており、機種選りから操作方法、料金プランの説明、契約の手続きまで全て手話で対応しています。また、手話が分からないお客さまへは筆談での対応も可能です。2010年12月からは、全国17店舗のソフトバンクショップと当カウンターとをテレビ電話でつなぎ、手話スタッフがご案内する「手話サポートサービス」も開始しています。

\* 2004年4月~2015年3月末までの延べ受講者数





## 楽しく学んで子どもを守る 「Yahoo!あんしんねっと for SoftBank」

最近では、青少年のスマートフォン所有も増えており、子どもが安全かつ安心してインターネットを利用できる環境整備が求められています。

ソフトバンクとYahoo! JAPANは、スマートフォンやタブレット向けのフィルタリングサービス「Yahoo!あんしんねっと for SoftBank」を共同で開発しています。このフィルタリングサービスをご利用いただくことで、不適切なサイトへのアクセスや有料サイトの高額利用を未然に防ぐことができます。このサービスは、安心・安全にインターネットをご利用いただけるよう、小学生から高校生までの成長に合わせた設定が可能です。

2014年2月14日からは、このサービスにソフトバンクが企画した「ネットあんぜん検定」を追加しました。子どもがクイズ形式の質問に答えることで、インターネットの安全な利用や危険性について知識を深めることができます。また、保護者や指導者の方は、検定結果に応じたアドバイスを基に、子どもの経験や知識に応じた対策を立てることができます。

▶ 動画サイトはこちら

▶ アプリダウンロードはこちらから



(公社)日本PTA全国協議会

\*iPad アプリケーションの名称は、「Yahoo!あんしんねっと HD for SoftBank」です。

\*Android™ アプリケーションの名称は、「Yahoo!あんしんねっと」です。

### 神戸市立小学校での取り組み事例



神戸市教育委員会では2014年度より、正しいインターネット利用や情報モラルを伝える「インターネット安全教室」を兵庫県立大学、NPO法人企業教育研究会と連携して、市内の全小学校高学年向けに実施。ソフトバンクはこの啓発の取り組みの効果測定のために「ネットあんぜん検定」を活用して対象児童のネット理解度を測定し、啓発効果の可視化や改善に協力しています。

測定では「適切なセキュリティ対策」「電子商取引への対応」「プライバシー保護」の正答率が低い傾向が見られ、結果を教育委員会、学校、家庭にフィードバックしました。本結果を学校での指導や家庭でのルールづくり生かし、児童一人一人の情報リテラシーを高める取り組みにつなげています。

## 警察の情報を搭載し、迷惑電話を防ぐ

### 迷惑電話チェッカー

「迷惑電話チェッカー WX07A」は、振り込め詐欺やしつこい勧誘電話など、悪質な迷惑電話からの着信を光と音で自動警告する製品です。自宅の固定電話回線に簡単に取り付け・操作ができ、増加している迷惑電話への対策として効果が期待されています。

迷惑電話番号の情報はユーザー全体で共有するほか、連携している30の都道府県警察本部から迷惑電話番号の情報提供を受けており、初めてかかってきた電話でも迷惑電話かどうかを判別することができます。2014年12月時点での迷惑電話番号の登録件数は2万6,000件以上。実証実験では、1か月間に800回以上、犯罪に使用された可能性のある番号からの電話をブロックしました。2014年11月からはY!mobileの電話向けに「モバイル迷惑電話チェッカー」のサービス提供も行っています。



## 社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト

### 従業員のアイデアが実現したサービスの一例

- 2012年9月 「ソフトバンク かんたん募金」  
日本の携帯電話業界で初めて\*金額を指定して寄付できるサービス
- 2013年3月 「旅バリふらっと伊勢志摩」  
位置情報を利用した情報配信アプリケーション「ふらっと案内」に、障がいのある方に観光をより楽しんでいただくことを目的としてバリアフリー観光情報を提供するサービスを追加
- 2013年5月 高齢者スタッフ「シニアクルー」を組織化  
シニアクルーによるシニア向けのスマートフォン講座を開始

\*日本ファンドレイジング協会調べ

ソフトバンクグループでは、社会のニーズに応える先駆的なアイデアを発掘するとともに、従業員が改めて社会のニーズなどについて考える機会となるよう、社員から社会課題の解決につながるビジネスアイデアを募り、選考を経たものを事業化するコンテストを2012年から開催しています。

2015年4月には4回目を迎え、これまでに集まったアイデアは約1,700件、そのうち8件が事業化し、社会課題の解決に役立っています。

## 復興イベントに携帯端末を無償で貸し出すチャリティーケータイ

東日本大震災から4年が経過し、復興支援団体の多くが「寄付金額の減少」を課題に挙げています。ソフトバンクでは、イベント運営事務局が復興支援団体に寄付することを条件に、イベント運営時に携帯端末を無償で貸し出す制度「チャリティーケータイ for 東北～復興支援の輪をひろげよう!～」を実施。マラソン大会

や自転車レースなど広域で行われるイベントでの通信手段として、活用いただいています。

この制度を活用したチャリティーイベントを増やすことで、継続的な被災地・支援者への支援を行うとともに、復興支援団体が抱える課題の解決をサポートしていきます。



## アクセシビリティ対応をリードする

スプリントは、2013年に全米で初めて、視覚障がいのあるお客さまにも使っていただきやすい携帯電話を発売しました。この機種はコンパクトで使いやすいフリップ式で、音声読み上げ機能や、高コントラストのディスプレイ、触覚のあるキーパッドを備えています。

また、スプリント独自のセットアップ・ウィザード「Accessible Now」を初期搭載したスマートフォンも発売しました。「Accessible Now」とは、全盲など視覚障がいのある方が、グーグルの視覚障がい者支援アプリケーション「Google TalkBack」\*を用いて購入後の初期設定の操作を自分でできるようにサポートするツールです。視覚障がいがあっても購入後すぐに自分で端末の操作を始めることができ、使いやすさの向上につながっています。

スプリントは、OEMメーカーとの密接な連携を通じて、機能的な端末を供給していきます。

\*Google TalkBackはGoogle Inc.の商標または商標登録

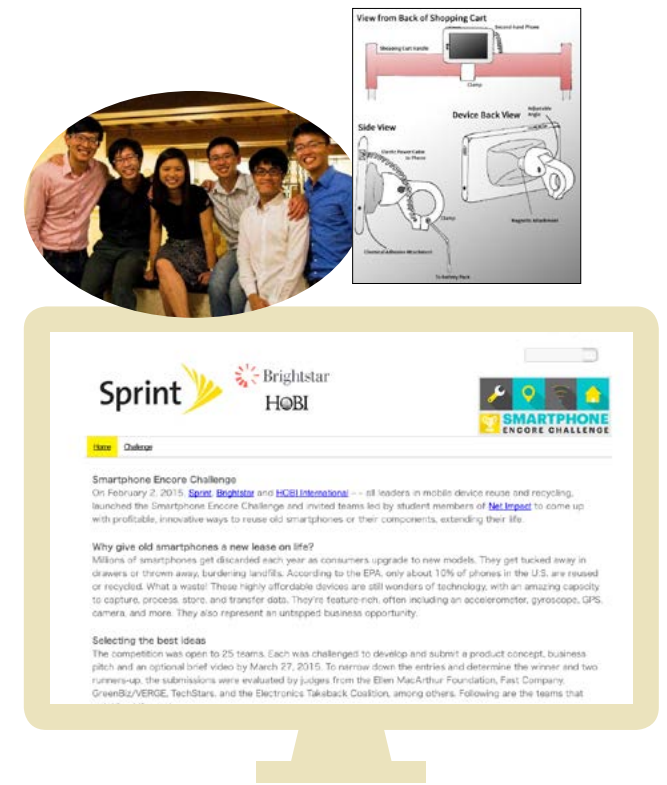


## 使用済みスマートフォンの活用案コンテスト

米国環境保護庁の推定では、毎年1億3,500万台の携帯電話が廃棄されており、そのうちリサイクルされているものは11%に過ぎません。電子機器の廃棄は、深刻な環境問題の一つとなっています。

スプリントは、ブライトスターおよびHOB Internationalと共同で、大学生・大学院生を対象とした使用済みスマートフォンやその部品の再利用のためのアイデアコンテスト「SMARTPHONE ENCORE CHALLENGE」を行いました。状態の良い使用済み端末は、データの取り込み、加工、保存、転送が可能で、また加速度センサー、ジャイロスコップ、GPS、カメラ、画面表示などの機能も使えます。コンテストでは、学生たちが製品コンセプトと販売戦略を策定し、スプリントとブライトスターが提供するリフォーム済みスマートフォンとアクセサリ類を使用してショートビデオを制作しました。

スプリントはこのコンテストを通じて、電子機器の廃棄への対応の可能性を考えています。

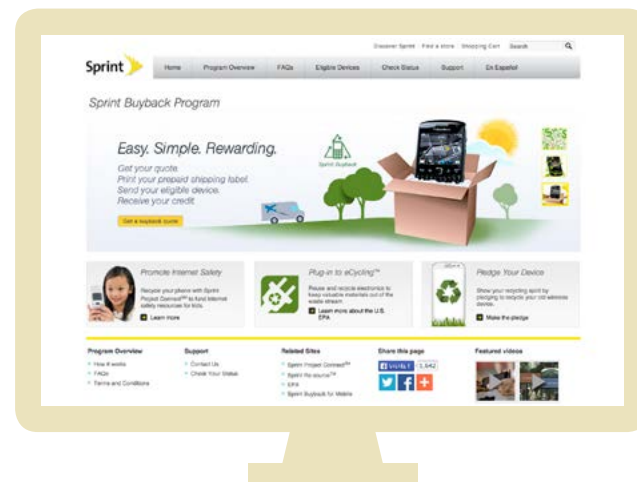


## 携帯リサイクルの先駆け

2001年、スプリントは全米に先駆けて携帯端末買い取りプログラムを導入し、2010年には、他社の携帯端末を買い取るサービスを始めました。携帯端末回収への積極的な取り組みと、オンラインでも店舗でも回収を申し込める手軽さから、4年連続で市場分析コンサルティング会社、Compass Intelligenceより“最も環境を重視した携帯電話事業者”に選ばれています。

2014年には、スプリントは300万台を超える携帯電話の買い取りを行いました。買い取りを通してお客さまに還元した金額は2億5,000万ドルを超えます。回収した携帯電話の9割以上は再利用され、残りの1割ほどは解体・溶解されてジュエリーや電池、自動車部品などの原材料としてリサイクルされます。買い取りプログラムはお客さまにとってのメリットになるだけで

なく、スプリントとしても10億ドル以上のコスト削減につながっています。



## 香港の若手起業家支援のための基金を創設



アリババは、香港の若者たちのキャリア形成と起業を支援することを目的として、非営利団体「Alibaba Hong Kong Young Entrepreneurs Foundation (アリババ香港若手起業家基金)」を創設しました。香港の若手起業家たちがアリババのシステム内のマーケットプレイスやプラットフォームを利用して事業化し、香港から中国本土へ製品やサービスを提供できるよう、当基金は資本や技術、専門知識を提供します。基金の財源は、起業家たちが起こす事業へ投資を行い、その収益で再投資を繰り返すことで維持します。このベンチャー投資プログラムは2015年後半に開始する予定です。



# 2014年度実績と2015年度予定

<p>&lt;自己評価基準&gt;</p> <p>A+ : 目標より高い成果が得られた</p> <p>A : 取り組みの成果が得られた</p> <p>B : 取り組みを行ったが目標の成果を得るにいたらなかった</p> <p>C : 成果が得られなかった、または取り組みなかった</p>
--

項目	2014年度実績	評価	2015年度予定
<b>経営全般</b>			
CSR基本方針の策定	グループ全体のCSRの指針として「ソフトバンクグループCSR基本方針」を開示	A	グループ全体のCSRの指針として「ソフトバンクグループCSR基本方針」を開示
体制、意思決定の過程および構造	●ソフトバンクの取締役1名を「グループCSR推進責任者」、グループ主要各社の役員を「CSR推進責任者」に選任 ●年2回の「グループCSR連絡会」を通じて情報共有・交換の実施	A	●ソフトバンクグループの取締役1名を「グループCSR推進責任者」、グループ主要各社の役員を「CSR推進責任者」に選任 ●年2回の「グループCSR連絡会」を通じて情報共有・交換の実施
CSR重要課題の特定	以下をCSR重要課題として実績と目標を公開 (ISO26000批准) ①健全なインターネット社会を ②夢と志を持つ次世代を ③地球の未来を(環境保全) ④復興支援の取り組み	A	以下をCSR重要課題として実績と目標を公開 (ISO26000批准) ①健全なインターネット社会を ②夢と志を持つ次世代を ③地球の未来を(環境保全) ④復興支援の取り組み
コーポレート・ガバナンス	社内外の監査部門による内部統制システムの検証・評価を実施	A	社内外の監査部門による内部統制システムの検証・評価を実施
<b>社員との関係</b>			
雇用対策	●役割と成果、能力に応じた公正な評価を実施 ●男女、年齢、学歴、国籍などに関係なく実力ある人材を採用、登用 ●ESサーベイ年1回の実施と改善の推進 ●育児支援制度の充実 ●障がい者雇用の推進 <b>Yahoo! JAPAN</b> 「ジョブチェン」(社内転職制度)を半期に1度実施	A	●役割と成果、能力に応じた公正な評価を実施 ●男女、年齢、学歴、国籍などに関係なく実力ある人材を採用、登用 ●ESサーベイ年1回の実施と改善の推進 ●育児支援制度の充実 ●障がい者雇用の推進 ●東京都地域展開型処遇改善事業への取り組み
労働条件、社会保障	●ワークライフバランスのための各種制度を継続 —各社、各部門ごとのノー残業デーの推進 —フレックスタイム制度の活用 —各種休暇制度の利用推進 ●過重労働対策 ●災害時の安否確認システム ●「ファミリーデー家族の絆 FY14」の開催 <b>Yahoo! JAPAN</b> ●サバティカル制度 ●ファミリーデーの開催 ●業績連動型社員食堂「BASE6」の設置	A	●ワークライフバランスのための各種制度を継続 —各社、各部門ごとのノー残業デーの推進 —フレックスタイム制度の活用 —各種休暇制度の利用推進 ●過重労働対策 ●災害時の安否確認システム ●「ファミリーデー家族の絆 FY15」の開催 <b>Yahoo! JAPAN</b> ●サバティカル制度 ●ファミリーデーの開催 ●業績連動型社員食堂「BASE6」の運用
コンプライアンス	●コンプライアンス・ホットライン(内部通報制度)の整備 ●コンプライアンス研修の実施(eラーニング含む) ●コンプライアンスセルフチェックのグループ展開 ●秋期にコンプライアンス月間を設定	A	●コンプライアンス・ホットライン(内部通報制度)の整備 ●コンプライアンス研修の実施(eラーニング含む) ●コンプライアンスセルフチェックのグループ展開 ●秋期にコンプライアンス月間を設定
安全衛生	健全な職場環境づくり、安全衛生体制の継続 ●こころからだの相談窓口(ウェルネスセンター) ●モバイルデバイスで利用可能なストレスチェックシステムを新規に開発し、グループ社員に向け実施 ●ホットライン ●急患発生時の連絡フロー ●メンタル面の予防・ケア ●マッサージルームの設置 ●職場内の身近な相談役(ピアサポーター)設定 <b>SBアットワーク</b> ●禁煙啓蒙(社員食堂での肺年齢チェック) ●救急看護講習	A	健全な職場環境づくり、安全衛生体制の継続 ●こころからだの相談窓口(ウェルネスセンター) ●モバイルデバイスで利用可能なストレスチェックシステムを活用し、グループ社員に向け実施 ●ホットライン ●急患発生時の連絡フロー ●メンタル面の予防・ケア ●マッサージルームの設置 ●職場内の身近な相談役(ピアサポーター)設定 <b>SBアットワーク</b> ●禁煙啓蒙(社員食堂での肺年齢チェック) ●救急看護講習
人材育成・教育	●社長自身による後継者育成プログラム(ソフトバンクアカデミア) ●社員自ら選択できる豊富な研修プログラム(ソフトバンクユニバーシティ) ●社員からの提案を広く募集する仕組み(ソフトバンクイノベーションチャーター、社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト) ●全社英語力向上施策の推進 ●TOEICスコアに準じたインセンティブ制度の実施(FY14) ●資格取得支援制度 ●社員同士の知恵や知識をシェアするプログラム(知恵マルシェ) ●社員が自ら講師となり研修を提供する制度(ICI)	A	●社長自身による後継者育成プログラム(ソフトバンクアカデミア) ●社員自ら選択できる豊富な研修プログラム(ソフトバンクユニバーシティ) ●社員からの提案を広く募集する仕組み(ソフトバンクイノベーションチャーター、社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト) ●全社英語力向上施策の推進 ●TOEICスコアに準じたインセンティブ制度の実施(FY15、12月まで) ●資格取得支援制度 ●社員同士の知恵や知識をシェアするプログラム(知恵マルシェ) ●社員が自ら講師となり研修を提供する制度(ICI)

項目	2014年度実績	評価	2015年度予定
<b>環境</b>			
環境マネジメント	ISO14001(本社・札幌)規格認証の継続	A	ISO14001(本社・札幌)規格認証の継続
資源利用量	オフィス環境目標 ●電力消費量 2010年度比 ▲28.3%(本社)、▲28.4%(札幌) <b>アイティメディア</b> ●スマートジャパン(節電・蓄電・発電に取り組む企業の課題解決サイト)運営 <b>ソフトバンク・テクノロジー</b> ファシリティ管理システムの導入による電力使用量の可視化と、集中管理を行い、エネルギー消費量削減施策を実施	A	オフィス環境目標 ●電力消費量 2010年度比 ▲25%(本社)、▲25%(札幌) <b>アイティメディア</b> ●スマートジャパン(節電・蓄電・発電に取り組む企業の課題解決サイト)運営 <b>ソフトバンク・テクノロジー</b> ファシリティ管理システムの導入による電力使用量の可視化と、集中管理を行い、エネルギー消費量削減施策を実施
環境保護	環境保全活動を継続的に実践 ●ペーパーレス徹底 ●「Bloomエナジーサーバー」導入(東京汐留ビルディング) ●グリーン調達ガイドライン遵守の徹底 ●一斉消灯システムの運用 <b>SBエナジー</b> 自然エネルギーの推進 <b>バリューコマース</b> 赤城自然園の協賛企業として活動支援	A+	環境保全活動を継続的に実践 ●ペーパーレス徹底 ●グリーン調達ガイドライン遵守の徹底 ●一斉消灯システムの継続運用 <b>SBエナジー</b> 自然エネルギーの推進 「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」での羊・ヤギによる除草試験の実施 <b>バリューコマース</b> 赤城自然園の協賛企業として活動支援
資源の再利用	●ケータリサイクル 105万台 ●ゴミの分別 ●使用済み文書の専用リサイクルボックスの活用	A	●ケータリサイクル ●ゴミの分別 ●使用済み文書の専用リサイクルボックスの活用
教育および意識向上	●「産業廃棄物の適正処理」「電子 manifests」などについてのeラーニングを実施し、関連法律・業務知識の向上 ●使用済み携帯電話の処理に関する社員の知識向上 <b>アイティメディア</b> ●スマートジャパンにて節電情報をウェブ上で公開 <b>SBエナジー</b> ●自然エネルギー・環境教育 ●「未来×エネルギー プロジェクト」実施(3校)・とっとり自然環境館開設 ●SBエナジーコンテンツサイト「みるみるわかるEnergy」展開	A	●「産業廃棄物の適正処理」「電子 manifests」などについてのeラーニングを実施し、関連法律・業務知識の向上 ●使用済み携帯電話の処理に関する社員の知識向上 <b>アイティメディア</b> ●スマートジャパンにて節電情報をウェブ上で公開 <b>SBエナジー</b> ●自然エネルギー・環境教育 ●「未来×エネルギー プロジェクト」実施(3校)・とっとり自然環境館運用 ●SBエナジーコンテンツサイト「みるみるわかるEnergy」展開
<b>ビジネスパートナーとの関係</b>			
公正な競争	●リバースオークション(電子入札)の実施 ●サプライヤー倫理行動規範遵守の徹底 ●お取引先との公正で良好な取引関係の維持	A	●リバースオークション(電子入札)の実施 ●サプライヤー倫理行動規範遵守の徹底 ●お取引先との公正で良好な取引関係の維持
<b>お客さまとの関係</b>			
消費者の安全保護	●情報リテラシー教育「考えよう、ケータイ」シリーズの推進 ●スマートフォンにも対応するフィルタリングサービスの提供 ●歩きスマホ、公共の場所での配慮点などケータイマナーについての注意喚起 ●歩きスマホ抑止アプリケーション「STOP歩きスマホ」の提供 <b>Yahoo! JAPAN</b> ●フィッシング警告、セキュリティ対策機能の提供 ●ヤフオク!での不正防止 ●インターネットに関する公的会議への参加と提言活動	A	●情報リテラシー教育「考えよう、ケータイ」シリーズの推進 ●スマートフォンにも対応するフィルタリングサービスの提供 ●歩きスマホ、公共の場所での配慮点などケータイマナーについての注意喚起 ●歩きスマホ抑止アプリケーション「STOP歩きスマホ」の提供 <b>Yahoo! JAPAN</b> ●フィッシング警告、セキュリティ対策機能の提供 ●ヤフオク!での不正防止 ●インターネットに関する公的会議への参加と提言活動
消費者支援、苦情解決	<b>ソフトバンクモバイル(現 ソフトバンク)</b> ●お客さま満足度向上のための各種施策を継続 —コールセンター利用者、店舗来店者へのお客さまアンケート実施と活用 —プロスタッフ認定制度 —My SoftBankの拡充 ●障がい者向けのIT支援推進 —障がい児の学習・生活のためのIT支援の研究 ●障がい者向け支援の強化・推進 ●高齢者向けのICT支援 —シンプルスマホ教室の実施 ●ソフトバンク手話教室の提供 <b>ワイモバイル(現 ソフトバンク)</b> ●迷惑電話チェッカー <b>Yahoo! JAPAN</b> ●災害情報の提供 ●カスタマーサポートを自社化しお客さまのニーズをサービスに反映する体制を構築 ●チャットを利用したサポートの開始 ●ヘルプページのコンテンツ充実 ●各種ウェブサービスパトロールの実施	A	<b>ソフトバンク</b> ●お客さま満足度向上のための各種施策を継続 —コールセンター利用者、店舗来店者へのお客さまアンケート実施と活用 —プロスタッフ認定制度 —My SoftBankの拡充 ●障がい者向けのIT支援推進 —障がい児の学習・生活のためのIT支援の研究 ●障がい者向け支援の強化・推進 ●高齢者向けのICT支援 —シンプルスマホ教室の実施 ●ソフトバンク手話教室の提供 ●迷惑電話チェッカー <b>Yahoo! JAPAN</b> ●災害情報の提供 ●チャットを利用したサポートの拡充 ●サービスの安心・安全強化 ●ヘルプページのコンテンツ拡充 ●各種ウェブサービスパトロールの実施



項目	2014年度実績	評価	2015年度予定
<b>お客さまとの関係</b>			
消費者データ保護およびプライバシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●規格の認証取得・継続 ※ISO27001認証の維持継続</li> <li><b>SBアットワーク</b></li> <li>●規格の認証取得・継続 (ISO9001、プライバシーマーク)</li> <li><b>リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ</b></li> <li><b>SBヒューマンキャピタル</b></li> <li>●プライバシーマーク運用 (JISQ15001:2006)</li> <li><b>バリューコマース</b></li> <li>●規格の認証運用 (プライバシーマーク、TRUSTe)</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●ISMS認証の取得</li> <li>●ISO15408認証の取得</li> <li>●PCI DSS認定の取得</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●規格の認証取得・継続 ※ISO27001認証の維持継続</li> <li><b>SBアットワーク</b></li> <li>●規格の認証取得・継続 (ISO9001、プライバシーマーク)</li> <li>●規格の認証を追加取得 (ISO27001、ISO20000)</li> <li><b>リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ</b></li> <li><b>SBヒューマンキャピタル</b></li> <li>●プライバシーマーク運用 (JISQ15001:2006)</li> <li><b>バリューコマース</b></li> <li>●規格の認証運用 (プライバシーマーク、TRUSTe)</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●ISMS認証の取得</li> <li>●ISO15408認証の取得</li> <li>●PCI DSS認定の取得</li> </ul>
教育および意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報セキュリティ教育、eラーニングを全従業員へ実施 —セキュリティメールマガジンの定期的な発行</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報セキュリティ教育、eラーニングを全従業員へ実施 —セキュリティメールマガジンの定期的な発行</li> </ul>
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害時を想定した訓練の実施</li> <li>●防災教育eラーニングの実施</li> <li>●全社的なリスクマネジメントをグループ各社へ拡大・推進</li> <li>●災害対策の検証や運用の定着</li> </ul>	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害時を想定した訓練の実施</li> <li>●防災教育eラーニングの実施</li> <li>●全社的なリスクマネジメントをグループ各社へ拡大・推進</li> <li>●災害対策の検証や運用の定着</li> </ul>
必要不可欠なサービスへのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネットワークセンターの強化、蓄電池や発電機による基地局の24時間化 (災害対策への取り組み)</li> <li>●BCP対策を推進 —移動基地局車・可搬型基地局・移動電源車・携帯発電機・貸出用携帯や衛星携帯電話などを全国各地に配備 —衛星携帯電話を増加</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●災害時の体制の構築</li> <li>●2009年に非常災害対策指針を制定</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネットワークセンターの強化、蓄電池や発電機による基地局の24時間化 (災害対策への取り組み)</li> <li>●BCP対策を推進 —移動基地局車・可搬型基地局・移動電源車・携帯発電機・貸出用携帯や衛星携帯電話などを全国各地に配備</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●災害時の体制の再構築</li> <li>●非常災害対策指針の改定</li> <li>●災害時のサービス優先定義の見直し</li> <li>●災害時を想定した訓練の実施</li> <li>●ICS (インシデント・コマンド・システム) の導入</li> </ul>
<b>地域社会との関係</b>			
コミュニティへの参画	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ソフトバンクモバイル (現 ソフトバンク)</b></li> <li>●多くの非営利活動団体が活用できる寄付プラットフォーム「かざして募金」の利用拡大</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●会社見学の受け入れ</li> <li>●保護者や学校と協働する研究会活動</li> <li>●小中高生を対象とした特別授業</li> <li><b>ソフトバンク・ペイメント・サービス</b></li> <li>●福岡県・佐賀県社会福祉協議会へのメセナシート寄付</li> <li><b>サイバー大学</b></li> <li>●コーポレート奨学生制度を新設</li> <li><b>SBクリエイティブ</b></li> <li>●公益財団法人日本科学協会への図書寄贈 (9、3月に合計約6,000冊)</li> <li><b>SBヒューマンキャピタル</b></li> <li>●プロスポーツ選手のセカンドキャリア支援事業</li> <li><b>福岡ソフトバンクホークス</b></li> <li>●福岡市立こども病院の慰問実施</li> <li>●小学生の野球観戦招待と保護者優待事業 (野球を通じた親子コミュニケーションの創出)</li> <li>●福岡市ときめきプロジェクトへの参画 (障がい者アートの販売支援など)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ソフトバンク</b></li> <li>●多くの非営利活動団体が活用できる寄付プラットフォーム「かざして募金」の利用拡大</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●会社見学の受け入れ</li> <li>●保護者や学校と協働する研究会活動</li> <li>●小中高生を対象とした特別授業</li> <li><b>ソフトバンク・ペイメント・サービス</b></li> <li>●福岡県・佐賀県社会福祉協議会へのメセナシート寄付</li> <li><b>SBヒューマンキャピタル</b></li> <li>●プロスポーツ選手のセカンドキャリア支援事業</li> <li><b>サイバー大学</b></li> <li>●コーポレート奨学生制度の継続</li> <li>●福岡でサイバー大学IT・ビジネスセミナー (無料) を開催</li> <li><b>福岡ソフトバンクホークス</b></li> <li>●福岡市立こども病院の慰問実施</li> <li>●小学生の野球観戦招待と保護者優待事業 (野球を通じた親子コミュニケーションの創出)</li> <li>●福岡市ときめきプロジェクトへの参画 (障がい者アートの販売支援など)</li> </ul>
地域社会との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ワイモバイル (現 ソフトバンク)</b></li> <li>●スペシャルオリンピックス日本スポンサー</li> <li><b>SBエナジー</b></li> <li>●発電所建設に伴う、地元への説明会実施</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●官公庁および自治体主催イベント・会議への参加</li> <li>●石巻復興ベースを地域へ開放</li> <li>●スペシャルオリンピックス日本に協賛</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ソフトバンク</b></li> <li>●スペシャルオリンピックス日本スポンサー</li> <li><b>SBエナジー</b></li> <li>●発電所建設に伴う、地元への説明会実施</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●官公庁および自治体主催イベント・会議への参加</li> <li>●石巻復興ベースを地域へ開放</li> <li>●スペシャルオリンピックス日本に協賛</li> </ul>

項目	2014年度実績	評価	2015年度予定
<b>被災地復興支援</b>			
東日本大震災	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ソフトバンクモバイル、ソフトバンクBB (現 ソフトバンク)</b></li> <li>●携帯電話利用料金による毎月寄付の枠組み「チャリティホワイト」支援の輪</li> <li><b>ソフトバンクモバイル (現 ソフトバンク)</b></li> <li>●被災地の経済活性化支援 —スマホアプリ技能開発支援および雇用創出 —復興支援ソフトバンク商品券</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●東日本大震災の復興支援および震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベント「ツール・ド・東北」の開催</li> <li>●東北地方の特産品をインターネットで販売する「復興デパートメント」</li> <li>●インターネットを活用した継続的な被災地支援</li> <li>●「Search for 3.11」プロジェクトの実施</li> <li><b>ベクター</b></li> <li>●「アルパカ・リーフ・プロジェクト」による募金を継続</li> <li><b>オッズ・パーク</b></li> <li>●公益財団法人東日本大震災復興支援財団への寄付</li> <li><b>バリューコマース</b></li> <li>●「ウェブベルマーク」のアフィリエイトプログラムの提供による活動支援</li> <li><b>SBアットワーク</b></li> <li>●従業員向け給与天引きによる寄付の仕組みを提供</li> <li>●ブックオフのサービスを利用し不要図書の売上代金を赤い羽根共同募金へ寄付</li> <li><b>SBクリエイティブ</b></li> <li>●公益財団法人東日本大震災復興支援財団への寄付 (2014年4月 100万円)</li> <li><b>ソフトバンク (現 ソフトバンクグループ)</b></li> <li>●東日本大震災で被災した高校生100人を対象にした「第3回 TOMODACHIソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」の実施</li> <li><b>SBヒューマンキャピタル</b></li> <li>●仕事情報サイト提供</li> <li><b>福岡ソフトバンクホークス</b></li> <li>●福岡ソフトバンクホークスオフィシャルサイトに東日本大震災復興支援特設サイト「がんばろう!日本」のバナーを掲載</li> <li>●各球場に募金箱を設置</li> <li>●ヘルメットに「がんばろう!日本」を掲出</li> </ul>	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ソフトバンク</b></li> <li>●携帯電話利用料金による毎月寄付の枠組み「チャリティホワイト」支援の輪</li> <li>●被災地の経済活性化支援 —復興支援ソフトバンク商品券</li> <li><b>Yahoo! JAPAN</b></li> <li>●東日本大震災の復興支援および震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベント「ツール・ド・東北」の開催</li> <li>●東北地方の特産品をインターネットで販売する「復興デパートメント」</li> <li>●インターネットを活用した継続的な被災地支援</li> <li><b>ベクター</b></li> <li>●「アルパカ・リーフ・プロジェクト」による募金を継続 (2015年7月終了)</li> <li><b>オッズ・パーク</b></li> <li>●公益財団法人東日本大震災復興支援財団への寄付</li> <li><b>バリューコマース</b></li> <li>●「ウェブベルマーク」のアフィリエイトプログラムの提供による活動支援</li> <li><b>SBアットワーク</b></li> <li>●従業員向け給与天引きによる寄付の仕組みとシステムの提供範囲拡大</li> <li><b>ソフトバンクグループ</b></li> <li>●「第4回TOMODACHIソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」の実施</li> <li><b>SBヒューマンキャピタル</b></li> <li>●仕事情報サイト提供</li> <li><b>福岡ソフトバンクホークス</b></li> <li>●福岡ソフトバンクホークスオフィシャルサイトに東日本大震災復興支援特設サイト「がんばろう!日本」のバナーを掲載</li> <li>●各球場に募金箱を設置</li> <li>●ヘルメットに「がんばろう!日本」を掲出</li> </ul>

\* **社名** の明記のないものはソフトバンク、および一部グループ会社が実施

\* 2015年4月1日付でソフトバンクモバイルはソフトバンクBB、ソフトバンクテレコム、ワイモバイルを吸収合併しました。なお、2015年7月1日付でソフトバンクモバイルはソフトバンクに、ソフトバンクはソフトバンクグループに社名を変更しています。





## ソフトバンクグループ株式会社

〒105-7303  
東京都港区東新橋1-9-1  
TEL: 03-6889-2000(代表)  
<http://www.softbank.jp/>

Copyright © 2015 SoftBank Group Corp. All Rights Reserved.

2015年7月

・ TM and © 2015 Apple Inc. All rights reserved. Apple, iPhone, iPadは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。  
・ Google, Google Apps for Business, Google Play, Google Playロゴ, Androidは、Google Inc.の商標または登録商標です。